

1. 科目名 (単位数)	音楽 (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140						
2. 授業担当教員	原 久美子								
4. 授業形態	演習, 講義, 実技	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識, 技術を身につけ, 理解を深める。保育現場では歌唱指導はもちろん合奏指導, リズム活動など様々な音楽活動やその指導において鍵盤楽器が使用されるため, それなりの演奏技術を身につけなければならない。具体的には「音楽」では子どもの歌を歌うのに必要な発声法, ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力を習得する。また, これらの技術・能力の習得のために必要な読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても実践を通して学ぶ。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な音楽理論を理解し読譜ができる。</li> <li>2. 弾き歌いをするための基本的な演奏力を身につける。</li> <li>3. 歌うための発声を習得し, 歌うことができる。</li> <li>4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができる。</li> </ol>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ピアノ実技: 提示された課題曲を次週までによく練習しておくこと。</li> <li>2. 弾き歌い: 練習を重ね, こどもの歌の弾き歌いに慣れる。</li> <li>3. 音楽理論: 楽典やコードネームの練習問題を課すことがある。</li> <li>4. 学期内に数回発表日を設け, 「ピアノ実技」, 「こどもの歌の弾き歌い」の演奏発表を行う。発表に向けて十分に準備すること。</li> </ol>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全音楽譜出版社編『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社</li> </ul> <p>その他, 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神原雅之, 鈴木恵津子編著『改訂 幼児のための音楽教育: 幼稚園教諭・保育士養成課程』教育芸術社, 2018。</li> </ul>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な音楽理論を理解し読譜ができるか。</li> <li>2. 弾き歌いをするための基本的な演奏力を身につけたか。</li> <li>3. 歌うための発声を習得し, 歌うことができるか。</li> <li>4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ピアノ伴奏による弾き歌いの発表</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2. 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか, 本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1. ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%	2. 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%	3. 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1. ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%								
2. 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%								
3. 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%								
12. 受講生へのメッセージ	ピアノや歌唱など, こども達の豊かな音楽表現を援助するために必要な基礎技術を磨きましょう。ピアノの上達のためには, 時間を見つけて少しずつでも毎日必ず練習する習慣をつけることが大切です。反復練習は時に退屈に感じるかもしれませんが, 地道な努力の積み重ねが上達に繋がっていきます。熱心に取り組み, 様々なレパートリーを作りましょう。								
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要), 音楽経験アンケート調査と演奏レベルチェック, 課題曲提示 楽典① (五線・音部記号・大譜表・音名と階名)	事前学習	鍵盤でドの位置を確認し既習の基礎的な音楽に関して復習しておく。						
		事後学習	楽典①の内容を理解する。各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。						
第2回	ピアノ演奏および弾き歌い① 楽典② (音符と休符)	事前学習	楽典②の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。						
		事後学習	楽典②の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。						
第3回	ピアノ演奏および弾き歌い② 楽典③ (拍とリズム)	事前学習	楽典③の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。						
		事後学習	楽典③の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。						
第4回	ピアノ演奏および弾き歌い③ 楽典④ (拍子)	事前学習	楽典④の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。						
		事後学習	楽典④の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。						
第5回	ピアノ演奏および弾き歌い④ 楽典⑤ (音の幅・幹音と派生音) ボディーパーカッション①	事前学習	楽典⑤の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。						
		事後学習	楽典⑤の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。						

第6回	ピアノ演奏および弾き歌い⑤ 楽典⑥（反復記号） ボディーパーカッション②	事前学習	楽典⑥の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑥の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第7回	ピアノ演奏および弾き歌い⑥ 楽典⑦（様々な記号） ボディーパーカッション③	事前学習	楽典⑦の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑦の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第8回	ピアノ演奏および弾き歌い⑦ 楽典⑧（長音階と短音階）	事前学習	楽典⑧の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑧の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第9回	ピアノ演奏および弾き歌い⑧ 楽典⑨（調性：ハ・ヘ・ト・ニ長調）	事前学習	楽典⑨の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑨の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第10回	ピアノ演奏および弾き歌い⑨ 楽典⑩（和声法：音階上にできる和音・和音記号）	事前学習	楽典⑩の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑩の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第11回	ピアノ演奏および弾き歌い⑩ 楽典⑪（コードネーム）	事前学習	楽典⑪の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑪の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第12回	ピアノ演奏および弾き歌い⑪ 楽典⑫（和音記号とコードネーム）	事前学習	楽典⑫の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑫の内容を理解する。ピアノ課題曲を弾けるように毎日練習する。
第13回	ピアノ演奏および弾き歌い⑫ 楽典⑬（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ度の和音のカデンツ）	事前学習	楽典⑬の箇所を予習しておく。提示された課題曲を弾けるように毎日ピアノを練習する。
		事後学習	楽典⑬の内容を理解する。第14、15回目の演奏発表に向けた練習を軸に取り組む。
第14回	バイエルの発表	事前学習	バイエルの発表に向けて練習を重ねる。
		事後学習	ピアノ演奏技術向上のため、発表での反省点を踏まえながら、継続してバイエルの練習に取り組む。
第15回	弾き歌いの発表	事前学習	弾き歌いの発表に向けて練習を重ねる。
		事後学習	弾き歌い演奏技術向上のため、発表での反省点を踏まえながら、継続して弾き歌いの練習に取り組む。